

1 商業科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

(1) 商業科の学習で身に付ける力

商業科は、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもつて行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目標としています。これは、高等学校学習指導要領総則で求められている、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことなどにも通じるものです。

今日、経済の国際化やサービス化の進展、情報通信技術の進歩、知識基盤社会の到来など、経済社会を取り巻く環境は大きく変化しています。このような社会にあって、その変化に適切に対応し、地域産業を始め経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成が一層重要になっています。

こうした人材を育成するために、商業科においては、ビジネスを理解し実践する力を身に付けさせるとともに、社会の信頼を得てビジネスの諸活動に取り組むための倫理観、遵法精神、規範意識、責任感、協調性など、ビジネスに必要な豊かな人間性を育むこととしています。

(2) キャリア教育の視点から見る商業科

教科目標については、その解説として、『高等学校学習指導要領解説 商業編』（平成22年5月）に次のことが示されています。

高等学校学習指導要領解説 商業編 《抜粋》

- (1) 資格取得や競技会への挑戦など目標をもった意欲的な学習を通して知識と技術の定着を図るとともに、単に知識や技術を習得させることにとどまらず、知識と技術を活用する上で必要となる思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (2) ビジネスの意義や役割について、社会人講師を活用した授業や就業体験などを積極的に取り入れるなど、経済社会とのかかわりの中で、生徒自らに考察させることを通して理解させる。
- (3) グループで調査や研究などの活動を行う機会、ビジネスの諸活動の望ましい在り方について討論や考察を行う機会、地域や産業界と連携して共同して課題解決に取り組む機会を設けるなどの工夫を図り、経済社会の望ましい構成者としての意識を高めさせる。
- (4) 実際のビジネスに即した体験的な学習活動を充実させるとともに、商業科に関する各科目において習得した知識や技術などを基に、日ごろから学校教育活動全体を通して、経済社会の発展に主体的に貢献する意欲を高めさせる。

ここに示されていることは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すというキャリア教育と大きく重なっています。商業科においては、社会で役立つ専門的な知識や技術の習得、創造的な能力や実践的な態度の育成などを目指す様々な学習活動が行われ、その中で、社会・職業の現実的理解を深めること、自分が将来どのように社会に参画していくかを考えること、職業へ円滑に移行する準備を進めること、自己の将来の可能性を広げていくことなどができます。

したがって、商業科の学習活動は、キャリア教育と密接につながるものと言えます。

2 高等学校における商業科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

商業科の学習を通して社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」を育成するためには、商業科の学習活動の様々な場면을キャリア教育の視点で捉え、経済社会や実務に目を向けさせる指導、具体的な事例を取り上げて生徒に考察や討論を行わせる指導、ビジネスの場面を想定した指導を充実させるなど指導の内容や方法を工夫するとともに、生徒の発達段階に応じて計画的、体系的に展開することが大切です。

次の表は、キャリア発達に関わる「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する商業科の指導内容の一部をまとめたものです。

「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する商業科の指導内容の例

能力／科目	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
基礎的科目	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスの場面に応じた言葉の使い方、話の聞き方、話し方、表情など基礎的なコミュニケーションの方法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぶ目標を定め、自ら学び、自ら考えるなどの主体的な学び方及び生涯にわたる継続的な学びの中で専門的能力を身に付けることの重要性についてガイダンスを行い、生徒の学習の動機付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 入手した情報を活用する際の情報の信頼性を見極めることの重要性について、具体的な事例を通して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業の学習と職業との関連及び卒業後の進路に関してのガイダンスを通して、自己の進路について考える。
総合的科目	<ul style="list-style-type: none"> 職業人としての望ましい心構えや良好な人間関係を構築することの必要性、職場における人間関係と接し方が仕事に及ぼす影響及びチームとして働くことの意義について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科の特色に応じた実践を行い、その中で、生徒が主体的に考え、判断し、行動する学習や、地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、商業に関する課題を生徒が自ら設定し、主体的にその課題を探究し、課題の解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自らの進路希望などに応じて適切な資格や検定に関する課題を設定し、将来の職業を見通して更に専門的な学習を続けることにつながる学習を通して、専門家を目指した継続的な学習態度を身に付ける。
商業の各分野に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい接客の方法について、ホスピタリティを含めて理解するとともに、実習を通して接客に関する実践的な知識と技術を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守（コンプライアンス）の重要性について、法令に違反した企業活動の具体的な事例の考察を通して理解する。また、説明責任（アカウンタビリティ）の重要性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ管理の必要性について、コンピュータウイルスや不正アクセスによる被害の具体的な事例を通して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業における経理部門の果たす役割及び会計担当者の役割や責任並びに会計に関わる職業について理解する。

商業科では、「ビジネス基礎」と「課題研究」が原則履修科目に位置付けられています。

「ビジネス基礎」は、自己責任や社会貢献の意識など経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせること、円滑にコミュニケーションを図りビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てること、商業を学ぶ目的や学び方及び卒業後の進路などについてのガイダンスを行い学習の動機付けを図ることなどをねらいとしています。

また、「課題研究」は、主体的に課題を探究し、課題の解決を図る学習を通して、自ら課題を発見して解決する能力や生涯にわたって自発的、創造的に学習に取り組む態度を育てることなどをねらいとしています。

したがって、これらの科目はキャリア教育を進める上で大きな役割を果たすものであり、入学から卒業までを見通したキャリア教育を進める上で、これらの科目と他の科目との関連付けを図ることが大切となります。

3 実践例 《ビジネス基礎》 ビジネスとコミュニケーション

コミュニケーションの基礎

■ ねらい

ビジネスの諸活動を円滑に行う上でのコミュニケーションの必要性について理解させるとともに、ビジネスの場面に応じた言葉の使い方、話の聞き方、話し方、表情など基礎的なコミュニケーションの方法を習得させる。

■ 本実践とキャリア教育

ビジネスの諸活動を円滑に行う上でのコミュニケーションの必要性について理解させるとともに、具体的なビジネスの場面を想定した指導を行い、実践的なコミュニケーションの方法を身に付けさせることを通して、「人間関係形成・社会形成能力」を育成します。

《全体構想》

主な学習活動	時数	
コミュニケーションの必要性 ・ 様々なビジネスの場面におけるコミュニケーションの必要性について、グループで考察する。	2	<ビジネス実務> (1) オフィス実務 イ ビジネスマナーとコミュニケーション <情報処理> (5) プレゼンテーション ア プレゼンテーションの技法 <広告と販売促進> (4) 販売活動 イ 接客の方法
基礎的なコミュニケーションの方法 ・ ビジネスの場面に応じた言葉の使い方、話の聞き方、話し方、表情などの基礎的なコミュニケーションの方法を考える。	3	
具体的な場面を想定したコミュニケーション ・ ビジネスの場面に応じて適切にコミュニケーションを深められるよう、接客などの場面を想定して演習を行う。	3	

更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

「家庭基礎」の「(2) 生活の自立及び消費と環境」の「エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画」での学習と関連付け、ビジネスの担当者としての立場だけでなく、消費者の立場を踏まえて適切にコミュニケーションを深める必要性について考えさせます。

また、「現代社会」の「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」の「エ 現代の経済社会と経済活動の在り方」での学習と関連付け、企業の経済活動における役割と責任を踏まえて適切にコミュニケーションを深める方法を身に付けさせます。

《本時のねらい》

- 接客の場면을想定した演習を行うことにより、ビジネスの場面に応じた適切なコミュニケーションの方法を実践的に習得する。

《展開》（6／8時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1 これまでの学習の確認 ・コミュニケーションの必要性 ・基礎的なコミュニケーションの方法	○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価 ○ コミュニケーションの必要性についてグループで考察したことを確認させる。 ○ ビジネスの場面に応じた言葉の使い方や話の聞き方など基礎的なコミュニケーションの方法について確認させる。
展開	2 本時の課題の確認 3 接客用語について学習する ・接客場面における適切な言葉を選択する。 ・場面に応じた言葉のイメージについて考察する。 ・表情や態度、礼の角度について考察する。 4 ロールプレイング ・グループ内でペアを作り、演習を行う。	○ 接客の場面におけるコミュニケーションは、言葉、表情、態度がそれぞれ総合的に作用することを確認させる。 ◎ 場面に応じて使われる言葉のイメージ及び表情や態度等から、相手にどのように伝わるのかについて、相手の立場に立って考察させる。 ○ 具体的な例を用いて、言葉の強弱や硬軟、表情、態度等によって相手に与える印象が異なることを確認させる。 ◎ 相互に演習することにより、相手の立場に立って行動することの大切さに気付かせる。
まとめ	5 学習のまとめ ・グループ内で相互評価を行い、気付いたことをまとめる。 ・自己評価をする。	◎ 繰り返し行うことにより上達することから、「経験」（実践）することの大切さに気付かせる。 ☆ 接客の場面における適切なコミュニケーションについて考えることができる。

《実践のポイント》

- 日常の体験とビジネスの場面を関連付けましょう。
生徒一人一人に、これまでの消費者としての体験を基に、ビジネスの場面を考察させます。また、グループによる考察の中で、個人の持っている体験を共有させることにより、様々な場面を想定させることができます。
- 説明し伝えあう活動を生かしましょう。
グループでの考察、ロールプレイングなどの学習活動においては、自他の意見を伝え合うことや相互に演習を行うことを通して、他者を理解するとともに、より深く自己を理解することが期待できます。

水産

1 水産科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

(1) 水産科の目標とキャリア教育

平成20年1月の中央教育審議会の答申を受け、職業に関する各教科・科目の改善について、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を重視し、体験的学習を通して実践力を育成すること、将来の地域産業を担う人材の育成という観点から、地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を深めさせること、人間性豊かな職業人の育成という観点から、生命・自然・ものを大切に作る心、規範意識、倫理観を育成することなどの改善が図られています。

これらを踏まえ水産科では、教育課程編成の一般方針に基づき、生きる力を育み、水産や海洋に関する産業の社会的、経済的な背景や動向を十分考慮して、水産や海洋を幅広く捉えて学習するという趣旨を明確にしつつ、「海、水産物、船」を素材とした学習を展開する中で、水産科の各分野のねらいを達成するために、包括的な目標を掲げています。

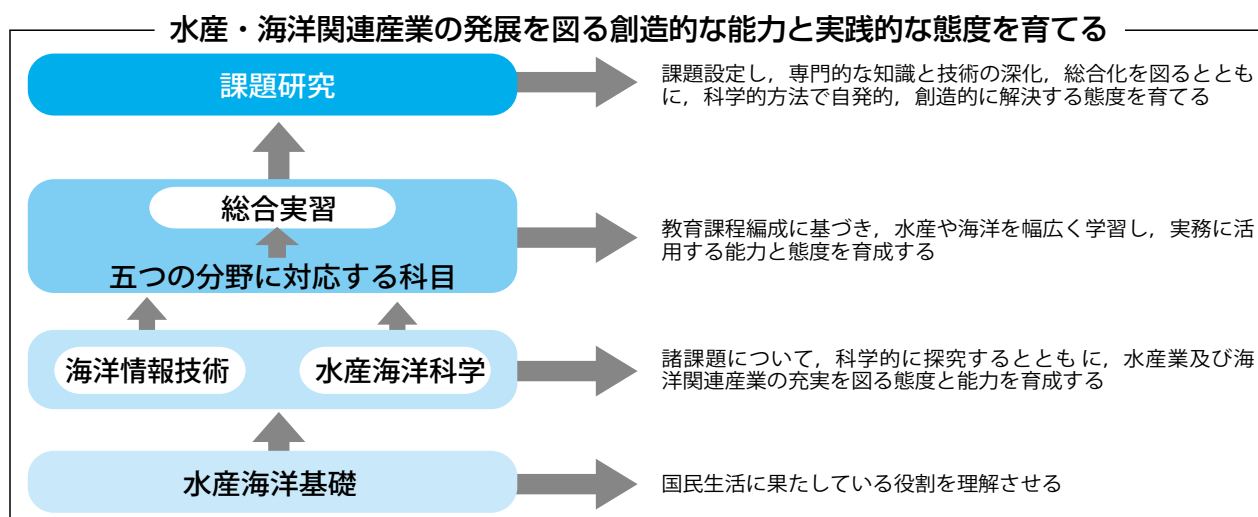
高等学校学習指導要領 水産 目標

水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

一方、キャリア教育は、一人一人の生き方に関わり、自己と働くこととの関連付けや価値付けを支援する教育であることから、教育課程の編成に当たっては、各校でキャリア教育の全体計画を立てる中で、育成したい基礎的・汎用的能力を設定して、系統的・計画的に、職場見学や就業体験等を進めることを通じて、個々の生徒がキャリア形成できることを求めています。

(2) キャリア教育の視点から見る水産科

職業教育を行う上で、キャリア教育は、その基盤となるとともに、職業に関する学習を通してキャリア形成を深めるものです。したがって、水産科でキャリア教育を進める場合、教育課程編成を俯瞰的に見渡し、教育の全体計画に、体験的学習（「総合実習」含む）を組み合わせ、自己評価やリフレクション（振り返り）などを組み合わせた計画的な指導を取り入れることで、生徒の学びを深めることができます。



2 高等学校における水産科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

水産科では、水産食品供給や海上輸送、海洋開発など持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図るために、水産や海洋の知識や技術を基に、創造的な能力と実践的な態度を育成することが求められています。

各校では、持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業の発展に貢献できる担い手の育成を目指して、主体的、合理的に、かつ倫理観をもって諸課題を解決できる知識と技術及び能力を身に付けさせるために、育成したい「基礎的・汎用的能力」を明らかにすることが大切になります。

教育実践に当たっては、入学してから卒業までを見通した、講義形式の学習と実験・実習の有機的な連携を図り、系統的・計画的な学習を進めることが必要不可欠な手立てとなります。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する水産科の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統や文化について興味・関心を高める。 水産業や海洋関連産業の意義や社会の役割を考える。 地域の人々とふれ合い、社会と自分の関わりを話し合う。 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割や環境との関係について考える。 実習などで、他者との協力・協働を通して、互いの考えを理解し、意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産業と地域社会との関わりの中で、自分との関わりに気づき、責任や義務を理解する。 聞き取りの中で、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。 体験の結果として、仕事の楽しさや達成感を実感する。 身に付けた技術を活用し、学習を振り返り、さらに必要な力を付けようとする。 自分の立場を理解して、主体的に行動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査や観測結果を集め、図やグラフにまとめ、分析力や観察力を身に付ける。 説明や具体例を加えるなど、工夫して自分の考えの根拠を明確にする。 自分の考えをまとめて、プレゼンテーションする。 シミュレーションを行うことで、事象の仕組みを読み取る。 社会の事象に疑問を見だし、課題を設定して、計画的に課題解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 先人の生き方と自分とを比較して、将来の自分について考える。 社会生活の中から課題を定め、諸活動を通じて、自分の考えを深める。 科学的な考え方が今後の学習や職業、社会生活と関連していることを理解し、自らの生き方に生かす。 地域の水産業や海洋関連産業などが抱える課題に目を向け、将来像を考える。

※ 科目「総合実習」の実施に当たって

総合実習の目的である「(前略)実務に活用する能力と態度を育てる」は、キャリア教育のいう基礎的・汎用的能力と密接に関連し合っていることから、育成したい能力と態度を具体的に設定し、評価についても、学習の達成度や定着を振り返ることが必要になります。

特に、乗船を伴う実習に当たっては、専攻科までの学習内容も含め、系統的・計画的に実施するとともに、安全で効果的な実習が行われるよう留意し、長期に及ぶ実践的な実習や資格取得に向けた学習を通して、キャリア形成を図っていくことが大切です。

3 実践例 《水産科 水産海洋基礎》

水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解させる

■ ねらい

この科目は、水産や海洋に関する学習の導入に当たることから、特に生徒の興味・関心や目的意識を高め、学習への意欲を喚起させる。

■ 本実践とキャリア教育

水産や海洋の基礎的な知識と技術に重点を置き、生徒の興味・関心、目的意識を高めます。具体的な事例として、水産物の漁獲、増養殖、流通、加工、漁業の文化や海洋環境と保全、船舶関連などについて、それぞれの概要を理解させることをねらいとします。

また、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」の育成につながるよう、水産業や海洋関連産業に従事する者の職業観などを取り上げ、進路との関連付けを図ることも必要です。この際、互いの学習や研究活動等の成果を発表する機会を設定します。

《全体構想》

主な学習活動	時数	
第2章 水産業と海洋関連産業のあらし		《インターンシップ》 ・ 事前・事後の指導を行い、学びの動機付けや進路と関連付ける 《特別活動（学校行事）》 ・ 職業人・社会人による講話 《ホームプロジェクト》 ・ 各産業の関心を高め、学習の効果を上げるような課題を設定する
1. 船と暮らし	10	
2. とる漁業・つくり育てる漁業と資源管理	10	
3. 水産物の流通と加工	10	
4. 海洋関連産業	10	
※ 〈学習課題〉	2	
単元学習の後の学習課題として、漁業生産から国民の食生活に至るまでの水産物の流れを、地域の産業について調べる		
○ 調べ方と発表方法の学習		
○ 地域の先人に水産業などの文化を学ぶ		
○ 海、水産物、船の関わる職業を調べる		
○ 職業ごとに必要な技能や資格を調べる		
○ 調べたことを発表し、今後の動機付けにする		

更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

国民生活に関わる学習では家庭科や公民科、資格取得に関わる学習では基礎となる理科や数学における様々な学習と関連付けることで、学習意欲の向上や効果的な学習の深化が期待できます。

《本時のねらい》

水産の各分野における基礎的・基本的な知識を学び、地域の水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解する中で、職種に必要な技能や資格について、自発的に調べる学習態度を育むとともに、職業人としての在り方を考えさせることをねらいとする。

本時は、グループ学習として位置付けて、漁業生産から国民の食生活に至るまでの水産物の流れを、地域の産業について「調べ学習」を行う。

学習課題を2時間設定し、1限目は調べ方や発表の仕方について学習し、2限目は調べた具体的な事例を発表し合い、国民生活に水産業の果たす役割を理解させ、学習の成果を上げる。

《展開》(41～42 / 42 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々が、海、水産物、船に関わる地域の産業から、自分が調べたい職業を選ぶ。 	○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価 ○ 調査活動に向けた具体的な準備について見通しと自覚をもたせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 地域の先人についての講演を聴く。 課題を解決するために適切な情報を収集する方法を学習する。 職種に必要な技能や資格を調べる。資格を取得した先輩から話を聞く。 グループによるポスターセッションを行う。 意見交換を通して、他の意見を参考に、互いの理解を深めるようにする。 学習を振り返りレポート作成する。 	○ 多くの分野から課題が出るようにする。 ○ 職場体験を実施する場合には、その目的や課題を把握させる。 ○ 調べたものをグラフなどで説明させる。 ☆ 資料を用いて課題に対し、適切な解決策を見いだし、自分の考えを説明させる。 ◎ 社会の在り方、自分の立場、社会の一員としての役割や責任を考えさせる。 ☆ 自分の課題、夢や適性を考えさせ、仕事に対する責任と自覚を認識させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自主的な学習態度の育成。 自分の体験や学習を通して、自分の生き方に生かそうとする。 	◎ 主体的な進路選択と将来設計をさせる。 ◎ 学習したことを踏まえ、自分の夢や希望と関連させ、働く意義を考える。

《実践のポイント》

- 地域の水産業や海洋関連産業の実態を踏まえ、これらの産業の役割を理解させる中で、適切な課題を設定し、体験活動などを通して、興味・関心をもたせ、自発的な学習態度を育成することをねらいとした、身近な地域の教材を設定しましょう。
- インターネットや文献による調査、市場の聞き取り調査を行うなどの自発的な学習を通して、課題を探究し、解決を目指します。また、発表の機会を設けるなど、ねらいに合った学習形態を工夫して、学習を深めましょう。

1 看護科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

看護はすべての人がよりよい健康状態を保ちながら、その人らしい生活ができるように生きる力を支援することを学ぶ教科です。今日、医療技術の進歩や急激な少子高齢化に伴い、看護を取り巻く環境は大きく変化しており、看護教育においては専門性の高い看護判断能力、安全管理技術や医療機器等に関する安全で確実な看護技術を有し、看護倫理・コミュニケーション能力・人権を尊重する態度などの豊かな人間性を身に付けた人材を育成することが求められています。そして、看護を学ぶことは人間理解を深め、生涯にわたり健康についてより主体的に考えていく力を育成することにつながります。看護科の目標には「国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てる」と明示されており、看護科の教育内容はすべてキャリア教育に関わりますが、以下に『高等学校学習指導要領解説 看護編』（平成22年5月）から、その特徴を表す部分を引用します。

高等学校学習指導要領解説 看護編 《抜粋》

第12節 看護臨地実習

- 看護実践のための基礎的な知識として、地域社会における医療施設の機能と看護の役割及び患者の療養環境、患者を身体的・精神的・社会的な側面から総合的に把握する方法、患者との信頼関係を構築するためのコミュニケーションの重要性について体験を通して理解させ、患者の状態に応じた日常生活の援助を行うことができる基礎的な能力と態度を育てる。
- チーム医療、他職種との協働における看護師の役割とチーム医療におけるメンバーシップ及びリーダーシップについて理解させ、看護をマネジメントできる基礎的な能力と態度を育てる。
- それぞれのねらいに応じた課題を生徒に主体的に設定させ、課題に関する情報の収集と分析、課題解決の方法の検討と実践について、臨地における体験的な学習を通して指導する。このような課題解決の一連の過程を学習させることにより、問題解決の能力を育てるように指導することが大切である。

このように、看護科の学習においては、看護の実践の場でのインターンシップを重視し、各学年の発達段階に応じたキャリア発達課題を設けることで、職業観・勤労観などの態度の醸成にもなり、その学習活動が系統的かつ効果的なキャリア教育になっています。

看護師として社会的・職業的自立
社会生活における看護の役割を見いだす力

看護の学習

臨地実習等での体験的な学習を通して統合する

- ・ 看護に関する基礎的・基本的な知識と技術
- ・ 看護の本質と社会的な意義の理解
- ・ 国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度

キャリア教育の視点

- メンバーシップ、リーダーシップの育成
- 看護計画を通じた問題解決能力の育成
- 実習記録の作成、実習事例の協議・発表により自分の考えを言語化し、他者の考えを理解する
- 倫理観、職業観、コミュニケーション力の育成

2 高等学校における看護科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

看護の実践能力を身に付けるためには、各科目における演習や臨地実習（病院等）の学習がとてても大切です。これらの体験学習を通して、既習の知識・技術を統合させ、主体的に課題を見付け科学的根拠に基づいて解決していく過程を学ぶことができます。また、これらの実習を通じて自己理解・他者理解を踏まえたコミュニケーション力やチーム医療におけるメンバーシップ、リーダーシップ、患者やその家族との関わり、職業観や倫理観の育成など、キャリア教育の目指す基礎的・汎用的能力を幅広く育成することができます。

「基礎的・汎用的能力」育成に関連する看護の指導内容の例

分野課程	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
1年次 ↓ 5年次 発達の段階に応じた高度化	<ul style="list-style-type: none"> 演習で援助する側とされる側の関係を体験し、双方の立場を理解する。 相手の話を正確に理解し、自分の心の動きに目を向け、それを言葉や行為で表現することができる。 グループで協力し課題解決に取り組む。 学びの成果を適切に他者に伝える。 患者の置かれている状況を受け止め、共感する。 患者やその家族、看護職などの医療スタッフと誠実に関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内での自分の役割を理解し、行動する。 様々な状況で自分の行動を振り返り、理解する。 人間はミスをおかす存在として捉え、その自覚の上で適切に行動する。 臨地実習による様々な困難やストレスの対処法を見だし、最後までやり遂げる。また、目標を達成したことで、自分の成長を知り、自己肯定感を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日常生活を普通に（問題なく）行えること」の大切さを再認識する。その中で課題を見付け、それを解決するために主体的に行動する。 患者の看護上の問題点を見だし、科学的な根拠に基づいた看護実践を行う。また実践した結果を評価・修正し、よりよい看護援助につなげる。 課題解決が困難な場合は、グループメンバーや臨床指導者、教員などと協議を重ね解決策を見いだす。 「人間が善く生きる」という看護に必要な倫理観を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 援助やコミュニケーションを通して看護の喜びや楽しさを見だし、看護を学ぶ目的を再確認する。 臨地実習を通して働くことの意義を見だし、自分の目指す将来像を形成する。 社会や生活の中での看護の役割を見いだす。 医療の場で活躍するスペシャリストと関わり、専門職としての役割やキャリアデザインについてイメージする。

社会的・職業的自立には、生徒が夢や希望を持ち、それに向かって具体的に行動し実現を図ることが重要です。高校入学時に看護に興味を持ち、「看護師になる」「看護を学びたい」という明確な目的意識を持っている生徒に対して、キャリア教育を系統的に行うことで、学校から社会・職業への円滑な移行が図られていきます。そして、常に変化する社会の中で時代に応じた看護師であるためには、生涯にわたって知識や技術を主体的に学び続けていく態度を育成することも重要です。

3 実践例

《専攻科 第1学年母性看護》ピア・エデュケーションを活用して人間の性と生殖を学ぶ

人間の性と生殖

■ ねらい

- 人間の性の概念と意義について、母性の健康の観点から人間の性の特徴を理解する。
- 性と生殖に関する本人の意思決定を尊重し、望ましい意思決定ができるように援助する方法について理解する。
- 性行動の責任ある選択や的確に判断する能力を身に付ける。

■ 本実践とキャリア教育

臨地実習では指導の下で生徒が患者に健康に関する指導を実施する機会が数多くあります。演習で同世代への指導を体験することで、生徒は自己理解や役割の理解を深め、主体的に学習に取り組む姿勢が身に付きます。また指導計画の立案、修正、準備、実施、振り返りという学習過程を通じて、「課題対応能力」の育成を図ります。さらに、初めて関わる看護科1年生とのコミュニケーションを通して円滑な人間関係の形成について学ぶことができます。

なお、下級生（看護科1年生）にとっても自らのキャリアモデルの形成が促進され、学習の目的意識が明確になり、自己有用感を高めることができます。

《全体構想》

主な学習活動	時数	
性について考える（講義） ・ 問題提起 （性感染症・妊娠・中絶・避妊・援助交際など）	2	〈基礎看護〉 ・ 看護職とその倫理 〈生活と看護〉 ・ 精神保健 ・ 生活と健康 〈特別活動〉 ・ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立 ・ 異年齢集団による交流
ピア・エデュケーションの準備（講義・グループ演習） ・ 看護科1年生への指導内容 ・ 効果的な指導方法 ・ 指導計画の立案・準備	4	
グループ発表（演習） ・ ピア・エデュケーションのデモンストレーション ・ 指導内容、方法についてクラス討論 ・ 計画修正	2	
ピア・エデュケーションの実施（演習）	2	
まとめ（演習）	2	

更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

性・生殖については、保健体育科の「保健」における「生涯を通じる健康」、家庭科の「家庭基礎」における「人の一生と家族・家庭及び福祉」に関連付けることでより理解を深めることができます。また公民科の「倫理」における「人間としての在り方生き方」にも関連付けることで、倫理的視点や人権を尊重する態度に結び付けて理解させることができます。

《本時のねらい》

- 同世代の生徒が性と生殖に関する問題を話し合うことによって適切な解決方法を見いだす。
- 下級生に性と生殖に関する正しい知識や情報を教育（エデュケーション）する体験を通して、効果的な指導方法を理解する。

《展開》（9～10／12時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	1 ピア・エデュケーションのルール確認 ・ 参加しやすい雰囲気作り・専門用語はわかりやすく・笑顔で話す・発言を共有し、否定しない・個人的なことは聞かない	◎ ピア・エデュケーションを行うに当たってのポイントになることを把握させ、生徒に運営させる。
展開	2 専攻科1年生が誘導し、看護科1年生が各グループに分かれる（各々3名程度） 3 自己紹介 4 ピア・エデュケーションの実施 ・ 月経周期、性感染症、避妊、人工妊娠中絶、異性との付き合い方について、自作の教材を活用し、クイズ形式や寸劇を用いて指導する。 5 グループ別まとめ ・ 看護科1年生は教室に戻りアンケートや感想を記入する。	◎☆ 性教育を実施する場面設定の工夫を考えて行っているか。 ☆ 性に関する知識を正しく指導しているか。 ☆ わかりやすい指導をしているか。 ◎ 質問や発言に対して否定せずに尊重させ、円滑な人間関係を形成させる。 ◎☆ 予想していなかった質問など問題が生じた場合、仲間で協力し問題解決に向けて取り組めたか。
まとめ	6 振り返り ・ 指導の自己評価や感想を記入する。 ・ 次時に看護科1年生のアンケート結果も含めてグループ及びクラス全体で振り返りを行う。	◎ 指導体験を通して自己肯定感を得る。 ☆ 工夫して指導することができたか。 ◎ 看護科1年生は自らのキャリアモデルを形成し、3年後の明確な目標を見いだすことができる。

《実践のポイント》

生徒は臨地実習で患者に健康に関する指導を行う時は緊張するので、校内で下級生への指導体験をすることで、事前準備の大切さや説明時に注意すべきことを理解し、工夫していくことができるようになります。また、少人数で演習をすることで、専攻科1年生は下級生の反応を直接感じることで、指導の楽しさを実感することもできます。

このピア・エデュケーションを取り入れることによって、生徒がこの授業を自主的に運営し、性と生殖に関する問題を同世代の仲間同士で話し合い、考える機会を持つことができるので、このような学習を通して生徒自身が適切な判断能力や自己決定能力を高められるようにしていくことが大切です。

さらに、異学年交流は上級生としての自覚も高まり、初対面の下級生とコミュニケーションを図ることによって円滑な人間関係を形成する力も育成できます。